

お詫びと訂正

2017年3月25日発行「神経眼科」第34巻1号におきまして誤りがございました。正しくは以下の通りです。

【訂正箇所】 P43 特集 “ロービジョンと神経眼科”
「ロービジョンに対する日本での取り組み—APAOでの受賞報告—」 田淵 昭雄 表1

表1：日本における明治以降の視覚障害者への眼科医の対応の歴史

時 代	視覚障害者への対応
明治時代(1868～1912)	当道座制は廃止(1871)され、盲学校が主体となる。
1878	日本最初の盲学校は京都盲啞院(京都府立盲学校) 教育の対象は琴、あんま、鍼の技術指導
1880	筑波大学附属視覚特別支援学校(東京盲学校)となる楽善会訓盲院が東京に設立、開校された。
1890	ルイ・ブライユの六点点字が日本に輸入、東京盲啞学校教師石川愈次の日本案に統一された。
大正時代(1912～1926)	聾女は20世紀には新潟県を中心に北陸地方などで三味線、胡弓を弾き唄い、門付巡業を主として生業とした。
1922	岩橋武夫 日本ライトハウスの前身である点字文明協会を設立(点字図書製作)
昭和時代(1926～1989)	1929 小柳美三東北帝大初代眼科教授が「弱視児童に対する特殊教育の必要」を日本学校衛生誌上に発表
1931	内務省が我が国初の盲人調査、日本盲人福祉協会設立
1932	宮下左右輔東京大学分院医長が弱視児童の特殊学級設立を提言
1933	山本脩一郎 小学校児童の教育に必要な視力の研究
	須田卓爾日本眼科医師会長・東京医専教授が弱視児童特殊学級設立建議を提出
	初の弱視学級(視力保護学級)が東京麻布の南山尋常小学校に開設
1935	岩橋武夫 日本ライトハウス会館の設立(大阪市)
1939	ドイツから盲導犬を導入
1940	本間一夫 日本盲人図書館の設立
1941～1945	第2次世界大戦
1947	失明者保護協会(失明傷痍軍人)発足 (松井新二郎の活躍)
1948	国立東京光明寮(のちの国立東京視力障害センター)設置
	国立塩原光明寮(のちの国立塩原視力障害センター(H25年3月廃止))設置
	日本盲人会連合(岩崎武夫初代会長)
1949	身体障害者福祉法施行。国立身体障害者更生指導所設立(所沢)
1950年代	リハビリテーション医学への眼科の本格的な導入(視覚障害児の調査、弱視レンズ、弱視教育について多数報告)
	弱視児や小児視覚障害児を積極的にケア(東大系グループ)
1951	国立神戸光明寮(のちの国立神戸視力障害センター)設置
1953	日本盲人社会福祉施設協議会(岩橋武夫初代会長)
1957	「盲学校小学部・中学部学習指導要領」弱視児童の視力の程度に応じた墨字の指導
1959	大山信郎(東京教育大学長)ら 弱視児に関する調査
1960年前後	原田政美、大山信郎、湖崎克が視覚障害リハビリテーションに活躍
1960	原田政美(両眼視機能研究、弱視・斜視研究の草分け) 視覚障害福祉について
	湖崎克 弱視教育に関する学校保健法を要請
1961	湖崎克「弱視教育(小中学校弱視学級)」を日本で広める。「弱視教育研究会(現、日本弱視教育研究会)」を発足。大阪医科大学病院内「弱視児のための院内学級」設置
1962	岡山労災病院に病院初の眼科リハクリニック開設(簡井純)
1963	大阪市立本小中学校弱視学級(戦後の本邦第1号の弱視学級) 研究誌「弱視教育」創刊、学校教育に必要な弱視用教科書、視力対策
1964	「盲人の人間宣言」(世界盲人福祉協議会) 国立函館光明寮(のちの国立函館視力障害センター)設置
	「日本弱視教育研究会」文部省からの補助金交付対象研究団体(大山信郎初代会長)が「弱視児の医療・心理・福祉・就労」「弱視研究」「弱視用機器開発」もカバー(会員は弱視学級(及び一部盲学校)の担当者の他に大学関係者、医療関係者、リハビリテーション・福祉関係者)
	順天堂大学医学部附属順天堂医院眼科に大学病院初のリハビリテーションクリニック開設(中島章、紺山和一、赤松恒彦)。障害の告知から心理相談指導、進路指導、病院内での生活訓練までを行う。1965 紺山和一ら 眼科 Rehabilitation Clinic について
	視覚障害の研究団体は、医師中心の学会(日眼や瞳眼)、「全日本盲学校教育研究会」、「日本特殊教育学会」
1965	岡山南方小学校、東京葛飾・住吉小学校(第2号の弱視学級)
1967	補装具として弱視眼鏡が認可
1968	東京都心身障害者福祉センターが開設。来所すれば、障害者手帳・障害年金の診断書交付から医療相談、補装具の処方、生活訓練、教育指導などリハのコースに乗るサービスシステムが確立。盲幼児指導が始まった。
1969	国立福岡視力障害センター設置
1970	日本最初の視覚障害者歩行訓練指導員講習会(日本ライトハウス)
1971	弱視用拡大テレビCCTVの開発
1973	愛知県心身障害者コロニー中央病院に視覚障がい児訓練室が盲乳幼児を対象に設けられた。
1975	神戸市立総合福祉センターに視力障害幼児生活訓練室が設立(視覚障がい乳幼児の早期訓練の開始)
1976	京都ライトハウス盲幼児部(現あいあい教室)で盲幼児指導訓練開始
1979	国立身体障害者リハビリテーションセンター(国立身体障害者、国立東京視力障害 国立聴力言語障害各センターが統合) 第1回視力障害乳幼児研究会(対馬貞夫、田中陽子、園部光子)
1980	順天堂大学眼科学教室が世界保健機関(WHO)から失明予防研究協力センターに指定(中島章、紺山和一)
1981	愛知県視覚障害者援護促進協議会(高柳泰世)による地域リハビリテーション
1984	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院にロービジョンクリニック開設(築島謙次)
1987	日本視覚障害リハビリテーション協会(日本ライトハウス)設立
1988	日本眼科医会が「中途視覚障害者のための社会適応訓練施設(リハビリテーション)一覧表」を発行
平成時代(1989～)	1989 日本眼科医会が「視覚障害者のためにーリハビリテーションマニュアルー」を発行
1991	厚生省主催の「眼鏡等適合判定医師研修会」→1995年から「視覚障害者用補装具適合判定医師研修会」に改称
1992	杏林大学医学部付属病院眼科にロービジョンクリニック開設(藤原隆明、樋田哲夫、平形明人) 視覚障害リハビリテーション協会設立
1993	川崎医科大学附属病院眼科にロービジョンクリニック開設(田淵昭雄) 信楽園病院にリハビリ外来開設(山田幸男、大石正夫)
1996	産業医科大学附属眼科にロービジョンクリニック開設(高橋広) 札幌医科大学附属病院眼科にロービジョンクリニック開設(永井春彦)
1997	岡山大学医学部附属病院眼科にロービジョンクリニック開設(守本典子)
1998	兵庫医科大学附属眼科にロービジョンクリニック開設(山縣祥隆)
	2000年ころまでに全国の半数近くの大学病院がロービジョンクリニックを開設
2000	第1回日本ロービジョン学会設立総会(理事長/総会長:田淵昭雄)

(谷合侑(著):盲人の歴史、明石書店、1996、仲泊聡:我が国における視覚リハビリテーションの歴史、日本の眼科 85:1157-1158, 2014を参照)

皆様方にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

日本神経眼科学会事務局 「神経眼科」編集室